

平成21年NPO中間支援組織強化推進事業

事業報告書

平成22年3月31日
NPOパワーアップコンソーシアム

目次

頁

報告書（概要）	3 ~ 7
報告書（本編）	8 ~ 13
1. 事業目的	8
2. 事業内容	8
3. 事業実施体制	8
4. 事業計画	8
5. 業務実施経過	8
6. 事業関連資料	9
7. 事業中間総括（平成21年10月31日の段階）	11
8. アクションプランに変えて＜アクションプランへの道すじ（指標）＞	11 ~ 13
＜添付資料＞	
添付 1 事業案内（協力依頼）文書	
添付 2 事業スキーム	
添付 3 実施要項	
添付 4 業務分掌	
添付 5 作業スケジュール	
添付 6 WS 検討会実施シナリオ	
添付 7 WS 検討会の速記録（& 備忘録）	
添付 8 目標展開検討報告書（最終）	
添付 9 メーリングリスト&メーリングログ	
添付 10 県HP（ボラ&NPO情報ページ）への「NPO 中間支援コーナー」&「同プログコーナー」	
添付 11 「NPO 中間支援組織強化を考える会」サポーターズ（仮称）のしくみ	
添付 12 多様な分野の専門家との連携による相談会等	
添付 13 次年度計画用事業案	
添付 14 中間報告書	
添付 15 インターネット活用交流会チラシ	

報告書 (概要)

山形県の委託で「平成21年度山形県NPO中間支援組織強化推進事業」が受託団体「NPOパワーアップコンソーシアム」により実施されました。

NPOパワーアップコンソーシアムは、県内のNPO活動の課題解決に役立ちたいと考える次のような団体で構成されています。

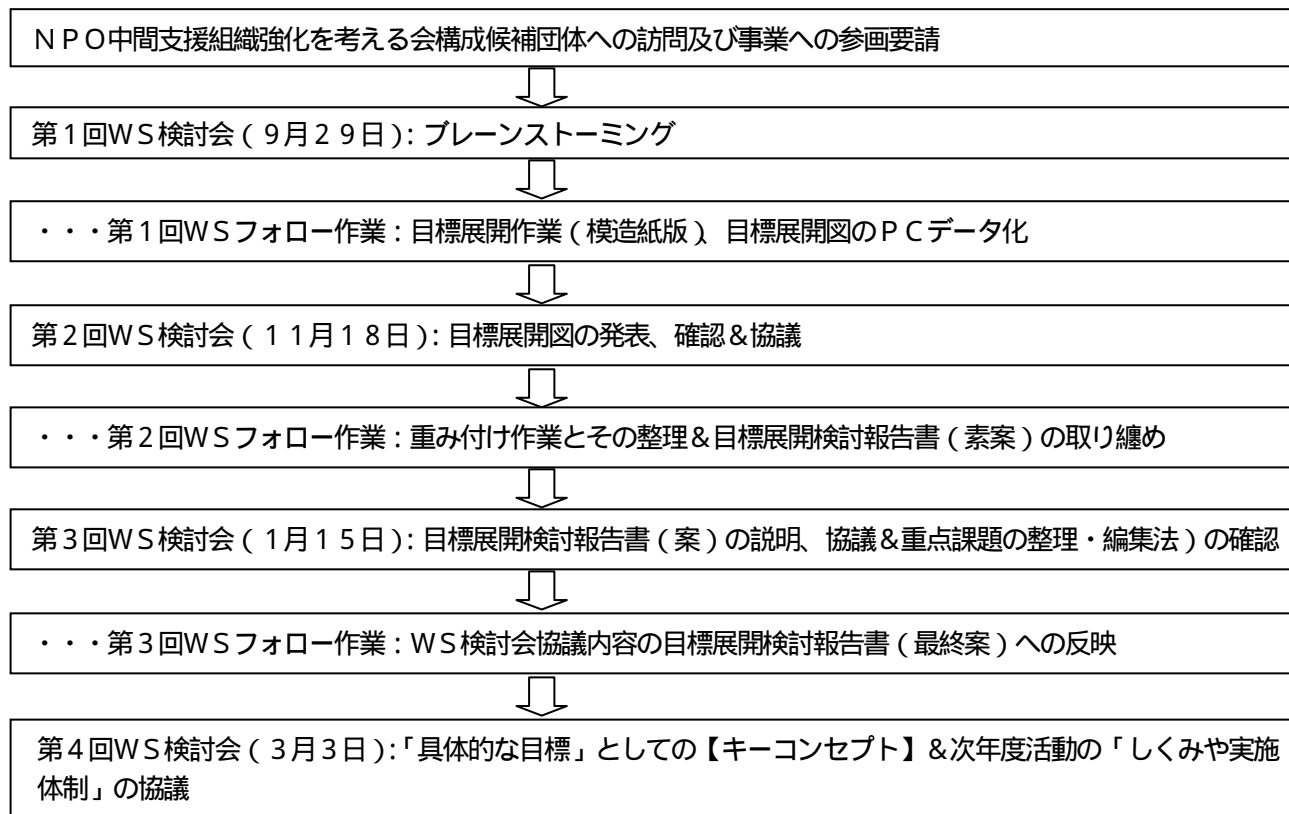
(特活) 公益のふるさと創り鶴岡 / おきたまラジオNPOセンター / (LLP) 山形ふるさと企画舎 / AISOHO企業組合

委託仕様書に沿ったような活動を実施しました。

1. NPO中間支援機能強化方策の検討

(1) NPO中間支援組織強化を考える会の開催

NPO中間支援組織強化を考える会における重要な作業として位置付けた、ワークショップ検討会(以下、WS検討会と記載)を開催し、ブレインストーミングやその後に行う目標展開作業、そして、それから導かれるNPO中間支援機能強化のための重点課題、具体的な目標としてのキーとなるコンセプト及び次年度活動の「しくみや実施体制」の協議までを次のようなステップで実施しました。



上記の結果(成果)のポイントは次の通りです。

(a) 重点課題

重点課題1 多様な主体とNPO中間支援組織との連携の強化

NPO中間支援機能の強化を図るにあたり、最初に、NPOと行政の関係性・役割分担を検討し、明確化する必要がある。

本県のNPO中間支援機能を継続的・発展的に強化していく環境づくりを行うためには、各種活動や施策をフォローアップし、PDCAサイクルを確保していく体制が必要であることから、ITを活用した情報共有の他、意見や情報等を整理し、コンセンサスを図る場の設置が必要である。

一方で、NPO中間支援に関わる行政施策は、横の連携が不足している状況が見られることから、行政内部でも施策の調整などの中間支援的な機能が必要である。

また、「新たな公」に代表される多様な主体の連携による県民活動の実践を目指し、官民の役割分担を再整理するとともに、行政との協働で委託事業等を実施する場合にも、地域やNPOの自主性・独立性が失われないう留意する必要がある。

重点課題2 NPO (& 中間支援法人)の抱える問題と課題の共有と周知

県民や地域の意見やニーズ・課題を的確に把握し、発信・提言する機能を、県内のNPOが十分に担っているとは言えない。

また、NPOが事業を実施していくに際して、組織のミッションは重要であるが、課題解決に当たっていくための事業をプランニングするスキルは、まだまだ立ち遅れている。

県民一人ひとりが主役(主人公)だと感じられる地域社会を形成するために、NPOは社会的な課題を顕在化させ、効果的な事業をプランニングしていくことが必要であり、その機能強化が求められる。

重点課題3 中間支援機能の定義付けの合意形成とその浸透

県内のNPO中間支援組織は、NPO中間支援の全ての機能を個別に備えているものでなく、それぞれが組織の特徴を活かして支援にあたっている。地域課題への対応には、ワンストップで答えずとも橋わたしやコーディネートする機能が必要であり、加えて、その前提となる様々な情報の収集・整理が必要である。

このようなことから、NPO中間支援機能の全県的な整備を図るためには、情報共有を推進し、ネットワークとして支援にあたるのが有効であり、その合意形成が必要である。

一方で、NPO中間支援活動の中で、情報や課題を繋ぐコーディネート機能は重要であるものの、“つなぎ役”だけで良いかというような悩みも抱えている。

重点課題4 情報の双方向で多面的な交流と共有の実現

多様な主体の協働によって地域課題の解決を図るためには、ラウンド・テーブルの設定することが効果的と考えられるが、その構成は課題毎又は地域毎に異なるべきものである。

また、ラウンド・テーブルを設定することは、これまで参加できなかったフィールドの方々への参加が期待でき、もって公益の新たな担い手の発掘にも繋がり、情報の双方向で多面的な交流と共有が実現されるものである。

重点課題5 中間支援作業に求められる姿勢(心得)の共有

NPOに対する様々な支援は互いの信頼関係がなければ成り立たない。透明性・責任性・信頼性を確保し、中間支援作業に求められる姿勢(心得)を、中間支援に関わる団体において共有する必要がある。

重点課題6 NPO (& 中間支援組織)のネットワーク構築の要否の検討と合意形成

NPO中間支援団体は、アメーバ式に内容や課題によって形をかえていくようなネットワークのあり方が必要ではないかという指摘がある。

また、NPO法人、任意団体、町内会、サークル、組合、個人、企業のCSRなど、どのような形であればサポートを必要とされるのであれば支援されるべきであり、その場合、そのサポートを受けて活動等が前進すれば、方法・支援の手段は限定されるべきでない。

様々な面からNPOの活動環境を整えていくためにも、NPO (& 中間支援組織)のネットワーク構築の必要性の検討や合意形成を図る環境を整備しておく必要がある。

重点課題7 中間支援というソフト業務に対する財源の確保

助成金の争奪という競争原理はNPOの協働を阻害するという意見はあるものの、近年のやまがた社会貢献基金に見られる寄付及び助成やCSR(企業の社会的責任)活動の進展は評価できる。

一方で、中間支援というソフト業務に対する財源の確保のための施策を検討していく必要がある。

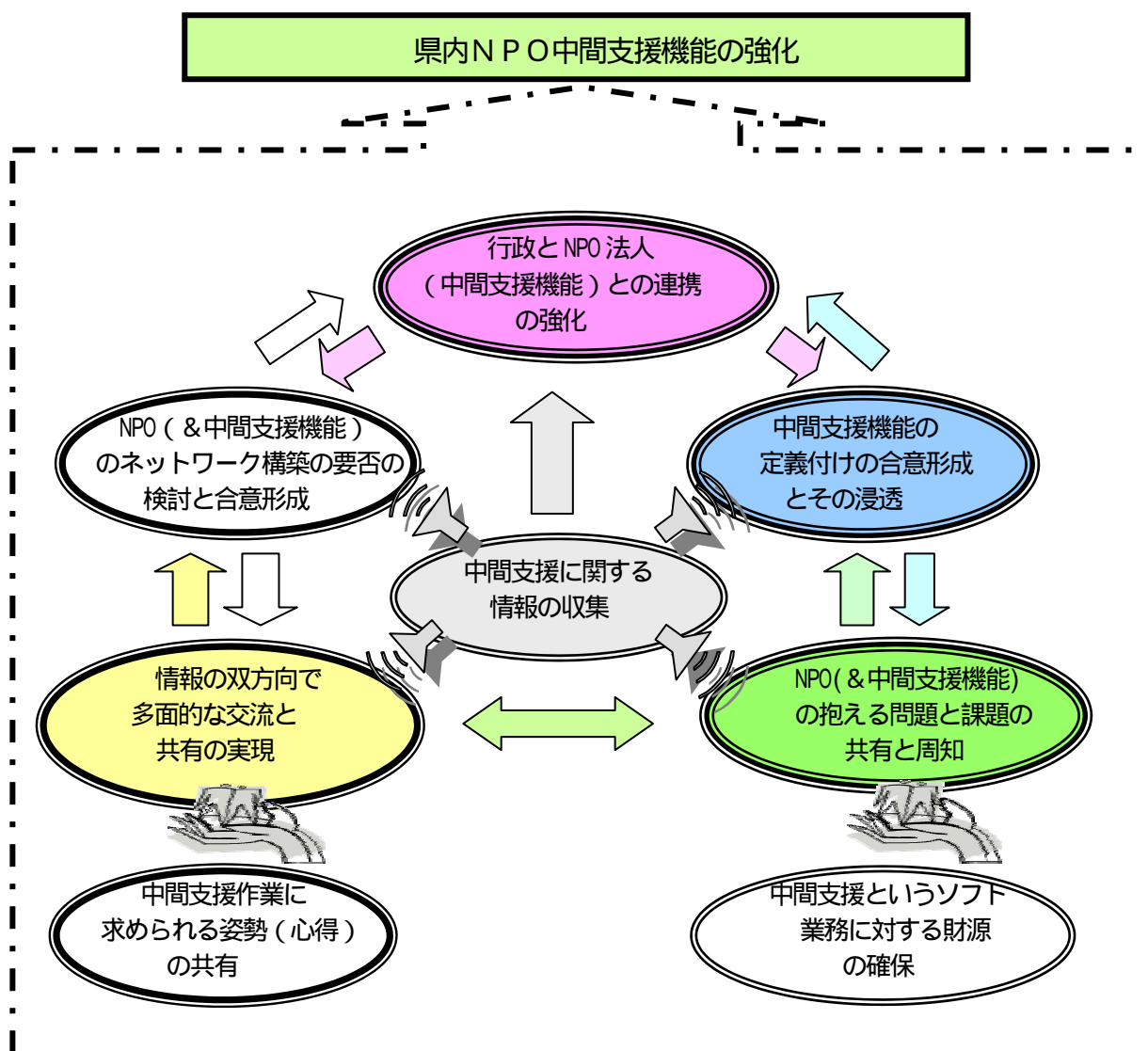
重点課題8 中間支援に関する情報の収集

県内にはNPO法人の活動事例を紹介する場面が少ないという指摘がある。各NPO中間支援組織の強み(得意)弱み(不得意)の把握が必要である。

これらの項目が選定されたプロセスやその詳細は別紙の「目標展開検討報告書(最終)」を参照願います。

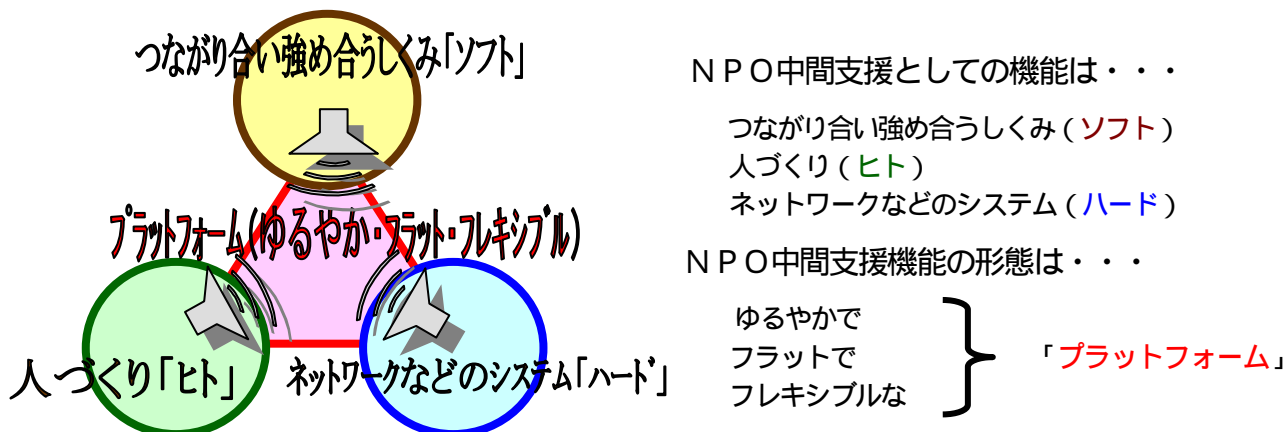
(b) 重点課題の関係図

(a)で述べた各重点課題1~8までを図に表しました。



(c) 具体的な目標とキーコンセプト

1～8までの重点課題を実施して行く際に必要となる「機能」「能力」「組織形態」についての目標とキーコンセプトは次のように整理します。



以上を受けて、そのスタートのためには次年度に入った段階で「中間支援機能強化推進」のための『準備会』を設置し、今年度の成果を引継ぎながらプラットフォームという場の活用により「NPOを支援する人材の育成」につなげていくことも視野に入れつつ継続して事業推進する方向が確認されました。

(2) NPO中間支援組織強化を考える会の検討を補完するコミュニケーションツールの構築

(a) メーリングリスト(以下、ML)の構築

NPO中間支援組織強化を考える会の参加者によるMLを構築し、関係者の情報交流に活用しました。

- ・ML名称 : [NPO tukanshien :]
- ・アドレス : npo@ml.npo.greater.jp
- ・参加団体 :
(特活) 公益のふるさと創り鶴岡 / 華酒田ねっと / (特活) NPO もがみ / 新庄市市民活動交流
ひろば「ぶらっと」 / (特活) やまがたの公益活動を応援する会・アミル / (特活) 山形創造
NPO支援ネット / (特活) Yamagata 1 / (特活) 長井まちづくりNPOセクター /
おきたまラジオNPOセンター / 山形県 / (LLP) 山形ふるさと企画舎 / AISOH 企業組合
- ・使用回数 : 70回弱程度(添付9参照)

(b) ホームページによる検討状況の公開

県のホームページ「ボランティア&NPO情報ページ」の中に次のような専用のブラウザを設置して当該事業の活動や検討作業の状況等を公開しました。

- ・ブラウザ名 : NPO中間支援 「平成21年度山形県NPO中間支援組織強化推進事業」
- URL http://ipage.yamagata-npo.net/modules/p103/index.php?content_id=6
- 専用バナー



(3) アクションプランに変えて<アクションプランへの道すじ(指標)>

アクションプランに対する一般的な位置づけ及び目指すものとしては事業などの管理サイクルとしてのP・D・C・Aの中で下記のように考えられています。

Pとしての全体計画を実施(D)に展開する上で必要となる「詳細計画(個別計画&作業スケジュール)」を意味し、立案した全体計画を「誰が、いつから、どのように、どこまで、そして成果は何か」というところまで落とし込む作業。

このような考え方に沿って今年度の当初の計画では次年度につながるような個別計画&作業スケジュールの雛形の作成を想定していました。

しかし、WS検討会の進捗状況にも配慮した結果「NPO中間支援機能」やアクションプランの指標として次年度の事業につながる「重点課題」、「キーコンセプトおよびその相関」という内容についての確認と合意形成に時間を掛けることに変更・了承され、参加者の了承の下でアクションプランの雛形の作成は次年度の作業と位置付けました。

2. 多様な分野の専門家との連携による相談等の実施

平成21年度山形県NPOアドバイザー派遣事業を受託している法人との連携を図って県内NPO法人のニーズの把握の下で次のような相談等事業を実施しました。

地 区	テーマ、連携団体
庄内地区	NPO・市民活動の運営資金獲得セミナー NPO運営資金の獲得と助成事業について：2月10日@酒田市交流ひろば ・庄内銀行ふるさと振興室 / 県民活動推進室 <参加者数：10名> 資金調達の極意&山形県社会貢献基金の説明：3月13日@鶴岡中央公民館 ・フ日本ファンドレイジング協会 / 県民活動推進室 <参加者数：13名>
最上地区	NPO・市民活動の運営資金獲得セミナー：3月12日@新庄市エコーガーデン ・助成金を獲得して事業を発展させるには・・・ ・山形県社会貢献基金の助成事業について <参加者数：16名>
村山地区	NPO運営相談会：3月2日@山形市市民活動支援センター ・税理士 / 社労士 / NPO運営実践者 / 事業管理（経営）コンサルタント <相談件数：5件>
置賜地区	NPO・SB（ソーシャルビジネス）パワーアップセミナー in 置賜 「事業力強化についての意見交換会・交流会」：3月8日@山形大学街中サテライトキャンパス ・山形大学国際事業化研究センター / 米沢信用金庫 <参加者数：約40名>

これらの詳細は報告書本編を参照願います。

以上

1. 事業目的 (委託仕様書から部分転記)

地域課題を解決するための自主・自立的な公益活動が、県内各地で展開されている。このような公益活動を支え、県民協働による地域社会づくり活動を一層推進するため、公益活動を多方面から支援するNPO中間支援組織の機能を強化することを目的に本事業を実施する。

2. 事業内容 (委託仕様書から転記)

(1) NPO中間支援機能の強化方策の検討

NPO中間支援組織強化を考える会の開催

県内4地域(村山地域、最上地域、置賜地域及び庄内地域)のNPO中間支援業務を行う主な特定非営利活動法人10団体程度が参加する「NPO中間支援組織強化を考える会」を立ち上げ、計4回のワークショップ検討会を各地域でそれぞれ1回ずつ開催すること。

また、平成21年度山形県NPOアドバイザー派遣事業を受託している法人が当該業務で把握したNPO中間支援組織に対するニーズ等を踏まえ、ワークショップ検討会に反映すること。

NPO中間支援組織強化を考える会の検討を補完するコミュニケーションツールの構築

NPO中間支援組織強化を考える会の参加者によるメーリングリストを構築し、関係者の情報交流に活用すること。また、検討の状況等をホームページ等で公開すること。

アクションプランの取りまとめ

上記及びの成果から、平成22年度以降の本県NPO中間支援組織強化に向けた事業ビジョン・コンセプト、事業実施計画書及び作業工程表等をまとめたアクションプランを作成すること。

また、平成21年10月31日までに中間取りまとめを行うこと。

(2) 多様な分野の専門家との連携による相談等の実施

NPO中間支援機能を強化するうえで必要な分野の専門家との連携方策を検討し、専門家による相談事業や専門家の派遣事業を行うこと。

実施にあたっては、平成21年度山形県NPOアドバイザー派遣事業を受託している法人と連携を図り、当該法人が把握した諸課題のうち、より専門性の高い課題を選定して、専門家による相談事業や専門家の派遣事業等を実施すること。

3. 事業実施体制

事業の開始に当たり事業仕様書を基にして、受託団体NPOパワーアップコンソーシアムおよびその構成として(特活)公益のふるさと創り鶴岡、おきたまラジオNPOセンター、(LLP)山形ふるさと企画舎、AISOHO企業組合による協議と了承を経て添付1の事業案内(協力依頼)文書を作成しました。

この資料を携えて各地区の主な中間支援団体を訪問して事業への協力と参画を要請しました。その結果を添付2事業スキームに反映してその徹底を図りました。

4. 事業計画

事業の関係者の協議を通じて委託仕様書に記載の事業目的に沿うため、添付2の実施要項、添付3の業務分掌、添付4の作業スケジュール及び添付5としてワークショップ検討会(以下、WS検討会と記載)の実施シナリオを調製して実施しました。

5. 業務実施経過

以下にその主要な部分を記載しました。

7月(平成21年)

- ・ 契約
- ・ ADR派遣事業連絡会議に出席

8月

- ・ NPO中間組織強化を考える会のWS検討会構成候補団体への事業説明
- ・ コミュニケーションツールの構築のための関係者との調整

9月

- ・ML配信開始
- ・県HP（ポータル&NPO情報ページ）への「NPO中間支援」と「ブログ」掲載開始
- ・第1回WS検討会のための県との下打合せ
- ・第1回WS検討会開催（9月29日、参加者数19名）&「WS速記録」のMLによる配信
- ・「NPO中間支援組織強化を考える会」サポーターズ（仮称）のしくみの立案

10月

- ・第1回WS（ワークショップ）検討会内容を県HP（平成21年度山形県NPO中間支援組織強化推進事業のブログ（<http://blog.yamagata-npo.net/~npo2009/>））に掲載
- ・第1回WS検討会BS記入ラベルによる「目標展開検討作業」と模造紙版「目標展開図」作成
- ・多様な分野の専門家との連携による相談等の実施のため、税理士会（木口税理士）への当事業の進捗状況報告
- ・次年度県民活動推進室予算用事業案項目のピックアップ（作業途中の目標展開図から）と提出

11月

- ・第2回WS検討会開催（11月18日、参加者数17名）&「WS速記録」のMLによる配信
- ・第2回WS（ワークショップ）検討会内容を県HP（平成21年度山形県NPO中間支援組織強化推進事業のブログ（<http://blog.yamagata-npo.net/~npo2009/>））に掲載

12月

- ・重み付け作業（点数記入）重み付け点数表の整理（集計結果と定量的抽出による重点項目の抽出）目標展開検討報告書（素案）の取り纏め

1月（平成22年）

- ・第3回WS検討会開催（1月15日、参加者数13名）&「WS備忘録」のMLによる配信
- ・第3回WS（ワークショップ）検討会内容を県HP（平成21年度山形県NPO中間支援組織強化推進事業のブログ（<http://blog.yamagata-npo.net/~npo2009/>））に掲載

2月

- ・「NPO・市民活動の運営資金獲得セミナー」開催：2月10日@庄内地区（酒田市交流ひろば）
- ・第3回WS検討会協議事項の目標展開検討報告書（最終案）への反映および調製

3月

- ・「NPO運営相談会」開催：3月2日@村山地区（山形市市民活動支援センター）
- ・第4回WS検討会開催（3月3日、参加者数13名）&「WS速記録」のMLによる配信
- ・「NPO・SB（ソーシャルビジネス）パワーアップセミナー」開催：3月8日@置賜地区（山形大学街中野ライオンビル）
- ・「NPO・市民活動の運営資金獲得セミナー」開催：3月12日@最上地区（新庄市コジカゲ）
- ・「NPO・市民活動の運営資金獲得セミナー」開催：3月13日@庄内地区（鶴岡中央公民館）
- ・第4回WS（ワークショップ）検討会内容を県HP（平成21年度山形県NPO中間支援組織強化推進事業のブログ（<http://blog.yamagata-npo.net/~npo2009/>））に掲載
- ・第4回WS検討会協議事項の目標展開検討報告書（最終）への反映および調製
- ・事業報告書の調製

6. 事業関連資料

6.1 準備段階

- ・「NPO中間支援組織強化を考える会」のWS検討会構成候補団体への事業案内（協力依頼）文書（添付1）
- ・事業スキーム（添付2）
- ・実施要項（添付3）
- ・業務分掌（添付4）
- ・作業スケジュール（添付5）
- ・WS検討会実施シナリオ（添付6）

6.2 事業開始後

- （1）NPO中間支援機能の強化方策の検討

(a) NPO中間支援組織強化を考える会の開催

平成21年度山形県NPOアドバイザー派遣事業を受託している4法人を含む県内4地域のNPO中間支援業務を行う10団体程度に参加を要請して「NPO中間支援組織強化を考える会」を立ち上げ、計4回のワークショップ(WS)検討会を各地域でそれぞれ1回ずつ開催しました。

これらの作業については次の資料を参照願います。

- ・WS検討会の速記録(添付7)
- ・目標展開検討報告書(最終)(添付8)

(b) NPO中間支援組織強化を考える会の検討を補完するコミュニケーションツールの構築

NPO中間支援組織強化を考える会の参加者によるメーリングリストを構築して関係者の情報交流に活用し、また、検討の状況等をホームページ等で公開しました。

これらの作業については次の資料を参照願います。

- ・メーリングリスト&メーリングログ:ML(添付9)
- ・県HP(ボランティア&NPO情報ページ)への「NPO中間支援コーナー&「ブログコーナー」(添付10)

- ・「NPO中間支援組織強化を考える会」サポーターズ(仮称)のしくみ(添付11)

(c) アクションプランに変えて<アクションプランへの道すじ(指標)>

当初の計画では次年度につながるようなこれら個別計画&作業スケジュールの雛形の作成を想定していましたが、中間取りまとめの報告やWS検討会の進捗から「NPO中間支援機能」やアクションプランの指標として次年度の事業につながる「重点課題」「キーコンセプトおよびその相関」という内容についての確認と合意形成に時間を掛けることで変更、了承されました。

これらの「重点課題」「キーコンセプトおよびその相関」については報告書(概要)に記載の内容を参照願います。

(2) 多様な分野の専門家との連携による相談等の実施

連携事業として指定されたアドバイザー派遣事業の受託NPO法人からの各地区のニーズ情報に基づいて地区ごとに実施され、相談希望サイドには抱える課題へのアドバイスや今後につながるチャンネル形成まで、主催サイドには地区内のNPOなどの抱える実際の課題の把握など双方にとって有効となる結果が得られています。

実施された内容は添付12を参照願います。

<庄内地区>

NPO・市民活動の運営資金獲得セミナー

NPO運営資金の獲得と助成事業について:2月10日@酒田市交流ひろば

- ・庄内銀行ふるさと振興室/県民活動推進室

- ・参加者数:10名

資金調達の極意&山形県社会貢献基金の説明:3月13日@鶴岡中央公民館

- ・フ日本ファンドレイジング協会/県民活動推進室

- ・参加者数:約13名

<最上地区>

NPO・市民活動の運営資金獲得セミナー:3月12日@新庄市エコジ-ガーデン

- ・助成金を獲得して事業を発展させるには・・・

- ・山形県社会貢献基金の助成事業について

- ・参加者数:16名

<村山地区>

NPO運営相談会:3月2日@山形市市民活動支援センター

- ・対応専門家:税理士/社労士/NPO運営実践者/事業管理(経営)コンサルタント

- ・相談団体:(特活)のびのび会/(特活)やまがた育児サークルランド/

(特活)ひだまりの家かほく/(特活)スペシャルオリンピックス日本・山形/

(特活)健康さくらんぼ21

< 置賜地区 >

NPO・SB (ソーシャルビジネス) パワーアップセミナー in 置賜

「事業力強化についての意見交換会・交流会」: 3月8日@山形大学街中フライトキャンパス

- ・山形大学国際事業化研究センター / 米沢信用金庫
- ・事例発表テーマ&団体:
山形県ならびに置賜地区のNPOの概況・・・長井まちづくりNPOセンター青木事務局長
まちづくり、生涯学習・・・IGN 戸田惣一郎さん
福祉サービス・・・(特活) ほほえみサービス米沢 色摩信司さん
子育て支援・・・(特活) スマイルハウス 草刈美紀さん
- ・参加者数: 約40名

7. 事業中間総括 (平成21年10月31日の段階)

次の添付資料を参照願います。

- ・次年度計画用事業案 (添付13)
- ・中間報告書 (添付14)

8. アクションプランに変えて<アクションプランへの道すじ(指標)>

アクションプランに対する一般的な位置づけ及び目指すものとしては事業などの管理サイクルとしてのP・D・C・Aの中で下記のように考えられています。

Pとしての全体計画を実施(D)に展開する上で必要となる「詳細計画(個別計画&作業スケジュール)」を意味し、立案した全体計画を「誰が、いつから、どのように、どこまで、そして成果は何か」というところまで落とし込む作業

このような考え方に沿って今年度の当初の計画では次年度につながるような個別計画&作業スケジュールの雛形の作成を想定していました。

しかし、WS検討会の進捗状況にも配慮し「目標展開検討報告書(最終案)作成に先立って<その2>」に記載(下記)しているように、「NPO中間支援機能」やアクションプランの指標として次年度の事業につながる「重点課題」、「キーコンセプトおよびその相関」という内容についての確認と合意形成に時間を掛けることに変更・了承され、参加者の了承の下でアクションプランの雛形の作成は次年度の作業と位置付けました。

3回のWS検討会を通して見えてきた「本事業テーマ実現のためのコンセプト(方向性)及び重点課題(実施方策)」の個々の内容の吟味はまだ充分とは言えませんが、この吟味にはこれから数回にわたる継続作業が必要と想定されます。

一方、次年度に向けた継続作業への道すじについての協議とその確認が重要なことは参加者各位ご承知の通りです。

そのため、第4回WS検討会では今年度の結果から次年度に繋がる成果を得るために、参加者の了承が得られれば次の3項目に挙げた検討協議を優先したいと考えます。

- 「具体的な目標」としての【キーコンセプト】に対する協議とその了解
- 次年度に於ける活動を実現する「しくみや実施体制」についての協議とその了解
- 目標展開検討結果に対するコメント&意見() & () についての協議とその了解

アクションプランの雛形作成よりも重点を変更して検討した<具体的な目標>としての【キーコンセプト】(報告書要旨に記載)に対する協議内容・提案を以下に記載します。

なお、報告書要旨に記載した次の3つの機能で区分表示します。

- ・ つながり合い強め合うしくみ(ソフト) : (a)
- ・ 人づくり(ヒト) : (b)
- ・ ネットワークなどのシステム(ハード) : (c)

(1) ゆるやかでフラットでフレキシブルな「プラットフォーム」で実現したい機能の例

常設の「場」の設置

<Web上の「場」>・・・(c)(a)

そのサンプルとして既に具体的なアクションとしてスタートしているWeb活用のプロジェクトを以下に紹介します(その企画案は添付15参照)

*参加団体のYamagata1の自主プロジェクト:「インターネット活用交流会」
ここでは、インターネットに興味や関心のある全ての方々の交流の場として、月1回程度の定期会合とウェブ・サイトを提供します。
*4月10日に1回インターネット活用交流会を予定しています。
URL <http://netcommons.emedia.jp/>

<顔が見える「場」>・・・(c)(b)(a)

直接(Face to face)相対してコミュニケーションできる場でありその参考例としてアドバイザー派遣事業連絡会との連携企画・活用およびその展開が挙げられる。

今回の事業とアドバイザー派遣事業とは重なっているところがあるため両事業の関係を少し整理して調整することで可能になる(拡大連絡会など)

アドバイザー派遣事業にとってもアドバイザーからの意見集約はアドバイザーを派遣してもらっていない団体に対する情報になり、補完&相乗効果が期待できる。

メーリングリスト(ML)の活用およびその展開・・・(c)(a)

今年度の事業で構築して活用したMLの機能を改善・継続してプラットフォームのコミュニケーションツールとして提供する。

ただし、その主旨や利用の要領に「参加の強要はしないがアクセスしたくなるような魅力」を盛り込むことが必要である。

県のHP(ボランティア&NPO情報ページ)の活用およびその展開・・・(c)(a)

今年度の事業広報のために県のHP(ボランティア&NPO情報ページ)内に専用コーナー(バナー付)を設置している。

この機能の継続(その主旨や利用の要領を見直しして)はプラットフォームの機能になる。

(2)次年度に於ける活動を実現する「しくみや実施体制」に対する協議内容・提案

事業の継続を視野に入れた「準備会(仮称)&事務局」の設置・・・(c)(b)

今年度の事業の次年度への継続に対する県の方向性が見えるまでに今回の参加団体の有志による準備会&事務局を設置するという提案がなされ参加の了解がなされた。

特定のコミュニティの場とも言われる「プラットフォーム」のあり方の検討と定義づけ・・・(c)

プラットフォームという場の活用により「NPOを支援する人材の育成」につなげていくことも必要と思われる。この検討を含め次年度における継続した検討対象とする(以下は定義の参考例)

「定義」

プラットフォームとは、プログラム(事業課題)を推進するために、人間系、情報系、文化系における情報、コミュニケーション、知識獲得のために形成された協働作業のために用意され特定のコミュニティの場である。

「プラットフォームマネジメント」

プラットフォームマネジメントとは、人間系、文化系、情報系の総合的な視点によりプラットフォームを定義し、認識し、設計し、立ち上げ、改良し、プログラム(事業課題)全体の組織的なコンピタンス(能力)を強化し、価値基盤を強化する活動である。

NPO&NPO中間支援活動の情報受発信機能としての「メディアの活用」・・・(c)

これまでもNPO&NPO中間支援活動の情報受発信機能としては関係者それぞれの努力によりWeb

上や新聞・TVなどの報道がなされているが、関係者以外では単発的な情報受発信になっている。

今回の事業を契機に次年度の検討テーマとして一般メディア（新聞・TVなど）に「NPOの情報受発信コーナー」の企画を設置してもらう申入れを行う提案がなされ、そのための「企画提案プレゼン資料の作成」について了解された。

着眼点:

- * ニュース性のあること
- * メディアに魅力ある、受けのよい「キャッチコピー」を使った見せ方
- * 「NPO 応援隊」というようなネーミングなど。

(3) 目標展開検討結果に対するコメント&意見() () & () に対する協議内容・提案

目標展開報告書（最終）に添付されているこれらコメントについては次年度における事業での検討対象とする事となった。

以上